



鍊心

**石嶺中
学校便り**

第1号

R 7.4.11
発行：石嶺中
校長 馬上 晃

＊伊良波 剛 先生
 ＊平尾文佳 先生
 ＊河野瞳子 先生
 ＊喜納政浩 先生
 ＊山内幸子 先生
 ＊松川安博 先生
 ＊宮里理枝子 先生
 ＊島袋 剛 先生
 ＊伊志嶺清 先生
 ＊グルン シュシユマ先生
 ＊崎濱睦美 先生
 ＊砂川利智子 先生
 ＊宮城聡真 先生
 ＊知念恵美子 先生
 ＊東江 望 先生

今年度、4月8日（火）の新任式では、新しく15名の職員が名門石嶺中学校に赴任しました。赴任前に本校生徒の素晴らしさについて、いろいろな方々から礼儀正しく、明るい笑顔の多い、つが、明るい、優しい生徒の多い、とても良い雰囲気、の学校ということ、を聞いていたそうです。

8日には、実際に2・3年生の様子から予想以上の生徒の明るい笑顔やあいさつ、礼儀正しさになど、本校生徒の良さの見える雰囲気や反応に感動していました。

また、築37年目の校舎とは思えないほど丁寧に使われて、いる校舎にも驚かされていたようで、清掃も行き届き、トイレなどはスリッパがその都度、整えられ、先生方や生徒のみなさんが意識的に学ぶ環境を大切にしていることが伺えたようです。

今度新しく来た先生方も皆さんと共にこのすばらしい石嶺中を引き継ぎ、さらに発展させていこうという意気込みでいっぱいです！よろしくお願いします。

今年度の学校経営

本校には、校訓にもなっている「鍊心（れんしん）」という基本理念があります。それは、物事に対してより深く、より広く、ねばり強く探求し、激しく変化する社会に主体的に関わり、たくましく生き抜く「鍊の心」をもった生徒に育ってほしいという思いが込められています。

また、中学校の三年間は、長い人生の中でも心や体が最も成長する大切な時期であるとともに、義務教育の締めくくりの三年間でもあります。中学校を卒業すると、上級学校へ進む人、働きながら学ぶ人など、それぞれの進路へ踏み出していきます。

中学校を卒業していくときに、変化の激しいこれからの社会を生きるために、確かな学力、豊かな人間性、健康や体力などの「生きる力」を育むことが、中学校の務めであると考えています。

本校では、キャリア学習と探求的な学習を柱とした「鍊心タイム」や、石嶺ドリル、鍊心ダイアリー、学習強化週間を連動させた「鍊心サイクル」による自学自習力の育成など様々な活動に「鍊の心」が反映された取り組みが生かされています。

教育目標

自ら学び 深く考え
未来を拓く 心豊かで
たくましい生徒を育成する

本校の校訓
『鍊心』

「錬心」とは、日本の剣豪、宮本武蔵の言葉から、精神や技を磨き上達をはかる「錬」を「心」に刻むということとして、身に付けた資質・能力は主體的な心（意欲）と連動し、生きて働く力となると考え、「錬の心」とした。

学校の使命 (ミッション)

生徒へ
○夢に誇りと愛校心を持った
主體性のある生徒を育てます

保護者へ
○協働して子どもの成長を支える
パートナーシップを築きます

地域へ
○体験・交流を通して地域とつながり
共に歩む学校をつくります

目指す生徒像

○学ぶ意欲に燃え、
確かな自己教育力を身につけた生徒

○心豊かに感じ、思いやり深く、
主体的に実践できる生徒

○活力にあふれ、心身共に健康で、
たくましく生きぬく生徒

【健康・体力】